

## 鉄道王国・富山の切り札 来春開始

富山県は全国でも有数の鉄道王国と言われている。北陸新幹線、JR西日本、あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道、トロッコ列車の黒部峡谷鉄道、路面電車も富山地方鉄道の市電、富山ライトレール、万葉線が走っている。中でも富山ライトレールは2006年にJR西日本から経営を引き継いで路面電車化して開業し、注目を集めた。また、富山市内を走る富山地方鉄道の路面電車は2009年に新路線を追加し、環状線化した。地方都市のローカル線はどこも苦戦が続き、縮小することが多いが、近年に線路が伸びているのが特徴だ。

そして、半年後の2020年3月、切り札となる鉄道プロジェクトが控えている。富山駅の北と南を走る富山ライトレールと富山地方鉄道の線路が、高架化した富山駅の下を通り、南北の路面電車とつながる。すると、日本海が近い「岩瀬浜駅」から富山駅を抜けて富山市中心市街地を回り「南富山駅」まで電車の旅を楽しめるようになる。南富山駅には富山地方鉄道の鉄道線が乗り入れていて、立山黒部アルペンルートへの入り口・立山駅まで行くことが可能だ。日本海から立山まで、電車の旅を楽しみながらほぼ直通で行く夢のルートが間もなく実現するのだ。

「鉄道」は不思議な魅力を持っている。バスや車では味わえない旅情がある。岩手県の三陸鉄道が今年全線開通した時も、沿線住民が手を振って歓迎している姿をニュースで見た人も多いと思う。住民が歓迎し、観光客に感動を与えられる力が鉄道にはある。

富山駅に立ち寄ると工事の真っ最中だった。ひっきりなしに路面電車が走り、市民や観光客が次々と乗っていた。新しい鉄道が走ることによって、富山の街はどのように変わるのだろうか。未来を予想するとワクワクする。来春、新しくなる富山の街に期待してほしい。

北日本新聞社 東京支社営業部長 堀井政彦



富山駅北口を走る富山ライトレール・ポートラム



富山駅は新しい線路が引かれる工事の真っ最中だった



富山駅南口の市街地には路面電車がひっきりなしに走っている